

こころの玉手箱

公明党代表
太田 昭宏



愛知県のJR豊橋駅前から北東に三、四ほど行くと、歩道に常緑樹が数本おきに植えられた街道に出る。冬は鮮やかな黄色の実が目につく。全国でも珍しい夏みかんの並木である。本数は百本あまり。見上げるほどの高さのもあれば、やや小ぶりのもある。近くの市立青陵中の生徒た

夏みかんの並木道

ちが少しずつ増やしてきた。毎年一月末には皆で実をもらい、老人ホームに届けたりしている。夏みかんの並木道。思っただけでもたのしくなる。さういってこぼこ坊主の夏みかん。葉がぐれにそれが見える。づらりとそれがならんで、実は私が言い出しっぺ

中学時代に植樹を提案



毎年1月末に生徒たちが実を収穫している(愛知県豊橋市)

だ。青陵中三年のとき、生だった。大火でうちひしが徒会長になった。せっかくならば何か後に残る活動をしたい。耳にしたのが、長ろうと提案。「実が盗まれて野原飯田市でのエピソード」という大人たちに子どもたちは「盗まれないような社会にしたい」と反論し、実現にこぎ着けた。「北の向こうが林檎ならば、南のこっちは夏みかんだ」。市役所などに何度足を運び、並木づくりに運動を展開した。残念ながら実際の植樹は翌年になり、私は穴を掘っただけで卒業したが、今では豊橋の名所となり、懐かしさ誇らしい気分だ。

一九七九年に父が亡くなった後も母は豊橋を動かさずにはなかつた。現実主義者だった母は私の一番の意見番で、テレビに出ると、「はきはきしてきてよかったです」と電話してきた。肌着の行商や下駄屋をしていた我が家は裕福ではなかった。食べるに困らなかつたのは働きの母のおかげだ。

その母も昨年暮れにじくなり、豊橋に行く機会はずう多くなかった。それでも夏みかんをみると、豊橋の景色や同級生の顔が思い浮かぶ。ふるさととの大事なきずだ。

おた・あきひろ 一九四五年、両親の縁開きの愛知県新城市生まれ。五六年に豊橋市に転居。京大大学院修了後、公明党機関紙局に入る。九三年の衆院選で初当選。党幹事長代行、国会対策委員長などを務めて昨年九月に代表に就任した。

だ。一九七九年に父が亡くなった後も母は豊橋を動かさずにはなかつた。現実主義者だった母は私の一番の意見番で、テレビに出ると、「はきはきしてきてよかったです」と電話してきた。肌着の行商や下駄屋をしていた我が家は裕福ではなかつた。食べるに困らなかつたのは働きの母のおかげだ。